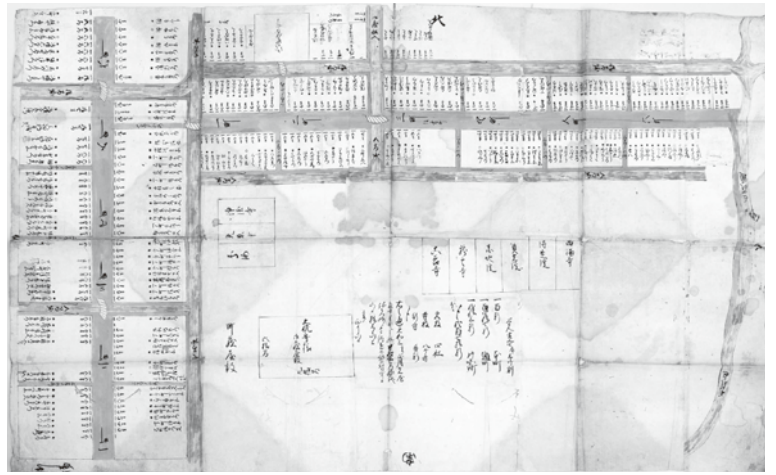


沼垂

ぬったり



寛文4 (1664) 年 沼垂町割図 (当館蔵)



八幡林遺跡出土木簡
(長岡市立科学博物館蔵)



昭和30年 蒲原まつり (本間喜八氏撮影 当館蔵)

開催趣旨

沼垂の地名の起源は『日本書紀』に記された淳足柵にさかのぼります。一時、古代越後国の中心でもあった沼垂は、場所をかえ、町の性格をかえながらも連綿と歴史を刻み現在にいたっています。近世には信濃川を挟んだ新興の新潟町と湊をめぐって対立しますが、大正3年に両者は合併します。新潟町はこの時新潟市となっており、ここに新たな新潟市の沼垂が誕生します。今年はその合併から100年目にあたります。

当館では、これを記念して沼垂に焦点を当てた企画展を開催します。地名のルーツが『日本書紀』にまでたどることができる沼垂がどのような変遷を経て今日にいたっているのか、また沼垂とはどのような特色のある地なのか、それを語る歴史資料や美術作品とともに明らかにします。

展示構成

| | | | | |
|---|---|--|---|---|
| <p>1 沼垂のあけぼの</p> <p>沼垂の名は、7世紀の淳足柵までさかのぼります。▶ 淳足柵から沼垂城、そして沼垂湊へと移りゆく、古代・中世の沼垂を紹介します。</p> | <p>2 絵図が語るみなと沼垂</p> <p>沼垂湊は阿賀野川・信濃川の河口に存在した室町時代の三ヶ津の一つです。湊である沼垂町は、江戸時代に移転を繰り返し現在の地にいたります。▶江戸時代の町の移転や湊の状況を絵図から読み解きます。</p> | <p>3 川を越えて -沼垂と新潟-</p> <p>江戸時代、沼垂町は信濃川を挟んだ対岸の新潟町と湊をめぐってしばしば対立します。大正3年に両者は合併し、同じ新潟市として歩み出しました。▶江戸時代の湊の対立や町の状況、また新潟と沼垂を結んだ萬代橋架橋後のあらたな町の形成について紹介します。</p> | <p>4 画家たちの沼垂</p> <p>沼垂は江戸時代以降、長井雲坪、須田霞亭、峰村リツ子、金子孝信といった画家を輩出しています。▶彼らの絵画作品から、画家たちの沼垂とのかかわりを紹介します。</p> | <p>5 沼垂・街の記憶</p> <p>沼垂は近代以降、河川交通を活かした醸造業を発展させ、今では「発酵の街」とも呼ばれています。▶醸造や船大工の道具、また、かつての町の風景をとらえた写真によって沼垂の街の記憶をたどります。</p> |
|---|---|--|---|---|

同時開催 新潟市・沼垂町合併100周年記念パネル展 【会場】 旧新潟税関庁舎 (新潟市歴史博物館敷地内)

関連事業

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| ① 展示解説会: 毎週日曜日、午後2時~3時 | 【時間】 午後1時30分~3時 |
| ② 関連講演会: 全2回 | 【会場】 新潟市歴史博物館 2階セミナー室 |
| 1月17日(土) 「川を越えて-沼垂と新潟-」 伊東 祐之 (当館副館長) | 【申込】 不要。直接会場へお越しください。 |
| 1月31日(土) 「沼垂のまつりと民俗」 渡邊久美子 (当館学芸員) | 【参加費】 資料代 100円 (各回) |

INFORMATION

- 観覧料 無料(常設展示の観覧は別途観覧料が必要です。)
- 開館時間 9:30 ~ 17:00
- 休館日 1/13(火)・19(月)・26(月)・2/2(月)
- 交通案内
- 新潟駅より: 新潟市観光循環バス(犬夜叉号)で27分 「歴史博物館前」バス停下車すぐ
新潟交通「昭和大橋・入船営業所」行きバスで30分 「歴史博物館前」バス停下車すぐ
- 車で: 新潟バイパス紫竹山ICより約15分(駐車場: 73台収容可能)
- 信濃川ウォータシャトルが敷地脇より発着
- お問い合わせ先
新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町 2-10
Tel: 025-225-6111 Fax: 025-225-6130
URL: <http://www.nchm.jp> E-Mail: museum@nchm.jp

